



発行所
カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町 3-6
 ☎ 0959 (72) 3957
 ●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

二八一五人

主任司祭 **中田輝次**

最近続けて幼児洗礼を執り行う機会に恵まれました。お一人は約束の時間に中田神父が遅刻してしまい、ご迷惑をかけてしまいました。その後、もう一人のお子さんの洗礼式を済ませ、これで福江教会の洗礼台帳に二八一五人目が記録されました。二八一五人は立派ですが、福江小教区よりも歴史の古い小教区は、もっと受洗者数が多いだろうと推測できます。ただ、福江小教区は中田神父が赴任したことで他の小教区とは違う強みがあります。それは「二八一五人すべてを、いつでもどこでも調べる事ができる」という強みです。

細かいことは書きませんが、洗礼の記録は市役所の戸籍のようなもので「取り寄せ」の依頼が来ます。具体的には、他教区（他小教区）に転出した人が教会で結婚をすることになりますと、受洗教会に「〇〇さんが当教会で結婚式を行います。貴教会にある〇〇さんの洗礼の記録を送付願います」と依頼が来ます。堅信式を受けるお子さんの場合もそうです。「〇〇さんが当教会で堅信を受けます。貴教会にある〇〇さんの洗礼の記録を送付願います。」そして無事に結婚や堅信が終わると「〇〇さんの結婚（堅信）の記録を送付します。貴教会の洗礼台帳に追記をお

願います」このような通知が来ます。

ここまでですと、即座に洗礼の記録を見つけて相手の教会にお知らせする必要がありますが、こと葬儀となるとそうはいきません。「当教会で葬儀を執り行うことになった〇〇さんは（ご家族によると）福江教会で洗礼を受けているそうです。葬儀・通夜の日程もありますので至急洗礼の日付と番号をお知らせ下さい。」問い合わせが必ず来るとは限りませんが、本当に福江教会で洗礼を受けた人なのか（他小教区で受けているかもしれないので）確認したい場合があります。

しかし主任司祭も三六五日司祭館にいるわけではありません（幸い福江教会には助任司祭がいますが、他小教区はそうではありません）。福江教会でも最終的に主任司祭をスマホで呼び出して確認することもあるでしょう。そういうとき、「いつでもどこでも調べる事ができる」のは安心につながります。

中田神父は、福江教会で洗礼を受けた人であれば、出張先でも、休暇でお出かけしていても、もっと言えばお誘いがあって海の上とか、食事の席であっても「〇〇さんは何年何月に福江教会で洗礼を

受けています。番号は〇〇番です」ここまででは返事ができません。こんな主任司祭の夢は、「福江教会の洗礼台帳に三〇〇〇番を記録するその日」です。

母校の閉校

助任司祭 **西田祐尚**

十一月十九日（日）のごミサに來られた方々には、私の方から少しだけ説明させて頂きましたが、今年、二〇二三年度を持ちまして、福岡カトリック神学院（旧福岡サン・スルピス大神学院、旧日本カトリック神学院 福岡キャンパス）が閉校することとなりました。まだ、これまで福岡大神学院を支えてくださった福江教会の皆様、また、下五島地区の信徒の皆様から感謝を申し上げます。

神学校の歴史は、長崎の大浦での信徒発見の出来事まで遡ります。一八六五年（慶応元年）三月十七日に日本にキリシタンたちの末裔たちがいたことが確認され、同年十二月八日（無原罪の聖母の祝日）より、大浦のパリ外国宣教会（通称パリミッシヨン会）の司祭館の屋根裏にて日本で初めての邦人司祭養成が始まりました。その後、

時代の変遷を経て一九二九年に東京に大神学院(校)が設立。日本で初めての大神学校となり、その後、一九四八年に福岡のサン・スルピス大神学院が設立。このころから、東京管区と大阪管区の神学生は、東京で、長崎管区の神学生は福岡で養成を受けることとなりました。その後、特に二〇〇〇年頃に入り、両神学校において神学生の減少などが続き、また、二つの神学校を維持していくことが難しくなり、協議の結果、日本カトリック神学院東京キャンパス、福岡キャンパスという形をとって、其々の神学校を維持していくこととなりました。しかし、ここでもまた様々な問題が起き、やはり東京か福岡のどちらかで一つの神学校として養成を行うおうと検討されましたが、結局、元々独立した神学校の形に戻り、これまでに至っていました。しかし、再度独立後も福岡の神学生数は、年々減少し、また、これからの時代は、全国の司祭が互いに協力しながら、宣教を行うことが大切だと日本の司教様方は考えました。そして、福岡を閉じ、二〇二四年度から「東京カトリック神学院」の名称を改め、「日本カトリック神学院」として、全国の司祭を養成する神学校としてスタートします。

私は、神学生時代を東京の神学校(日本カトリック神学院東京キャンパス)でも過ごし、福岡の神学校(日本カトリック神学院福岡キャンパス、福岡カトリック神学院)でも過ごしています。特に、福岡の神学校は、小神学生の頃から知っているのですが、福岡から、九州から神学校がなくなるのは、そして、母校がなくなるのは残念でなりません。しかし、日本全国協力し合う司祭たちの時代という神様の「時の声」だと理解し、長崎教区の司祭召命と日本の司祭召命の实りのために、お祈りしていきたいと思えます。皆様も、引き続き、お祈りください。

尚、神学校の歴史に関する記事は長崎教区家庭委員会HPの『司祭養成』の項目から『福岡カトリック神学院』をクリックして頂きますと出てきます。



九月二四日(日)二番ミサにて、シモン稲田祐馬神父様の霊名のお祝いが行われた。初めに子ども代表で赤窄諒太郎くんが、次に岩下議長がお祝いの挨拶を行い、その



後花束と霊的花束、記念品が贈られた。

神父様は、お礼の言葉の中で「今回体調を崩して霊名のお祝い式を一週間遅らせてしまいました。しばらく自宅で食事を摂るなどして過ごしました。療養中は賄いのシスターが休み返上で世話してくださり感謝しています。こうして皆さんに支えられて日々過ごしている事に改めて気付かされました。叙階の頃の初心を思い出し頑張っていきますので、引き続きお祈りをお願いします。」と述べられた。

教会学校や玉之浦の司牧などで多忙な中ですが、コロナ禍でやり残していることも多々あるかと思えます。徐々にコロナ前の活動に戻っていく中で神父様の若さを生かした取り組みを期待しています。よろしくお祈いします!

清掃活動報告

— 香珠子海岸 —

十月十五日(日)午後香珠子海岸にて恒例の清掃活動が行われた。この活動は、教皇様の環境保護に対する呼びかけに答える形で始まったもので、今年で四年目となった。

当日は日差しが強く風も吹く中であったが、約十数名の参加者により海岸に漂着した空き缶やペットボトルなどを拾い集め、約一時間でゴミ袋にして十四袋ほどが回収された。参加された方々、暑い中ご苦労様でした。

近年よく聞くSDGs(持続可能な開発目標)の活動の一環として、職場や学校など様々な集まりで清掃活動を行う機会が増えたように思う。この活動が福江教会でも定着し環境保全に繋がるものとなって欲しい。



下五島地区交流会

十月一日(日) 中央公園市民体育館メインアリーナにて下五島地区交流スポーツ大会が行われた。

教区間の信徒や司祭、シスター方の親睦を目的に行われた今大会はコロナ禍の影響もあり実に七年ぶりの開催となった。浦頭、三井楽、貝津など七小教区より約二五〇名の信徒、司祭、シスターの選手が参加した。福江教会からは約四〇名が参加した。

競技はペタンクとソフトバレーの二種目で、選手たちの多くは大会前の主日ミサ後や平日夜間などに練習を行い試合に臨んでいた。



ペタンクとは、赤と青のボールを的になるボールに向けて転がし、的に近い方の色のボールの数が得点になるルールで、老若男女問わず参加しやすい競技である。ソフトバレーは、通常より大きく柔らかい専用のバレーボールを用いて、一チーム九人で行う。

交流目的で和やかな中にも、真剣に競技に臨む様子が各選手に見られた。他の教区の方ももちろん、同じ福江教会の信徒どうしても普段ゆっくりと関わる事がない現状もあり、競技を通して互いを知る良いきっかけになったのではないかと。次回はより多くの信徒が参加して交流の輪を広げていって欲しい。

牢屋の窄殉教祭

2023

十月二三日(日) 午後、久賀島の牢屋の窄殉教教会にて殉教祭が行われた。

当日は雲一つない晴天に恵まれ下五島の各教会の信徒、シスター方が百名以上参加した。福江からは、まづ檜ノ浦港から海上タクシーで久賀島に渡り久賀小中学校に集合した。



祈念ミサに先立ち、はじめに久賀小中学校より殉教教会までロザリオを唱えながら行進を行った。祈念ミサでは、殉教者への献花と殉教の様子を記した碑文の朗読が行



われた。ミサの中で中田神父様は「この世を生きる時間をも神に捧げた殉教者たち。『神のものは神に返しましょう。』を体現したのです。迫害という理不尽な責めを受けた久賀島の信徒の信仰に少しでも倣いたい。一步踏み込んだ生き方をしていきたい。」と述べられた。

これまで浜脇教会の主催で行われてきたこの殉教祭であるが、信徒の減少などにより地区全体での行事として行われる事となった。久賀島に渡ったことのない方、来年はぜひ巡礼を兼ねて参加し、先人の印した深い信仰を感じ取っていただきたい。

● 教区主催追悼ミサ ●



去る十一月五日(日)十三時半より福江教会にて、長崎大司教区のすべての聖職者・修道者・信徒のための追悼ミサが中村倫明大司教様の司式のもと行われた。この追悼ミサは数年前までは毎年浦上の聖職者墓地で行ってきたが、近年各教区主催で行うようになったもの。

今年には下五島地区で行い、これですべての地域を周ったことになる。下五島の各教会から約一五〇名の信徒が参加した。

ミサの中で、中村大司教様は「教会には大きく分けて二つの教会があると言われています。」

まず、目に見える地上の教会。生きて天の国を目指し、旅をしています。もう一つはこの世を終えた人たちが集まる天上の教会です。地上の教会でごミサをあげているときに、天上の教会でもとにごミサをあげ

初聖体式

2023

おめでとう!!



十一月二十六日(日)二番ミサにて初聖体式が行われた。男子一名、女子二名の計三名の子供たちは、四月からの九か月間教会学校で神様、イエス様について学び晴れてこの日を迎えた。

.....

「本日の追悼ミサで、亡くなった人たちのためにお捧げしている様子を天上の教会から眺め、祈ってくださいありがとうございますこととされています。」「天上の教会では、地上の教会に比べて遥かに多い人たちが一緒に祈りし、ごミサと一緒に預かって、私たちは見守られ助けられて支えて頂いているのです。私たちこそありがとうございます。」と話された。

初聖体を受けて一かみさまによるこんでいただくためにがんばること!



◆ フランシスコ
中村 健琉 たける
これからもきょうかいをがんばる。



◆ イザベリナ
中尾 梨那 りな
おかあさんからたべると力をもらえるとききました。
はっせいたいがたのしみです。



◆ マリア
入口 愛唯 あい
おいのりをがんばる。こころをきれいにする。ごミサをやすまない。

緊張の中で御聖体の恵みに預かった子供たちに対し、中田神父様は「無事に初聖体を迎えられたお友達のみなさん、教会の台帳に今日の日付を書き込みます。天国にもおそらく日記があつて、今日の事を守護の天使が書いてくれると思います。今日の初聖体は、ずっと一生涯大切な記憶として残ります。ごミサに来て、お恵みを積み重ねて行つてください。お友達の成長と一緒に教会も成長し



お知らせ

◆ クリスマス〜年末年始の予定

《クリスマス募金》
12月24日(日) 午後6時から

※聖堂前で行います。ご協力をお願いします。

《クリスマスミサ》
12月24日(日) 午後7時

※ミサ後お菓子の配布があります。
12月25日(月) 午前6時

午前9時

《年末ミサ》

12月31日(日) 午前6時
午前9時

《年始ミサ》

1月1日(月) 午前6時
午前9時

1月2日(火) 午前9時
1月3日(水) 午前9時

◆ 今後の予定

1月7日(日) 午後1時

馬小屋、イルミネーション撤去
1月21日(日) 午前11時

下五島地区合同回信式
※通常ミサ 午前6時 午前8時